

みんなで作る！

地域防災マップづくりのすすめ

第5期川崎区区民会議

地域を育むまちづくり部会

目 次

1 「地域防災マップづくりのすすめ」の目的	1
2 地域防災マップ作成の流れ	1
3 地域防災マップ作成の進め方	2
(1) 初期段階	2
(2) 計画段階	2
(3) まち歩き実施段階	2
(4) マップ作成段階	3
(5) 応用段階（マップのデータ作成）	3
4 地域防災マップの活用及び普及	3
(1) 各地域での「地域研修会」や「避難訓練」での利用	3
(2) 日常的な「家族防災会議」の活用	3
(3) 自主防災組織、町内会・自治会、地域住民などへの配布	3
● 役割分担表（例）	4
● 役割別チェックリスト	5
5 参考資料	6
● 「大島地区防災まち歩き」の実施結果	6
● 第5期川崎区区民会議提案「わたしの防災手帳」	17

1 「地域防災マップづくりのすすめ」の目的

地域で災害時に役に立つものや危険なものを、地域住民が主体となって書き込んだ地図が「地域防災マップ」です。

自分たちが住むまちの避難所はどこか、危険な場所はどこかなど、地域に住む地域住民自身が、地域の防災情報を共有して、災害時には慌てず冷静に素早く安全に避難ができるように備えることが大切です。

この冊子は、一人ひとりが知っている情報を出し合い、地域の実状を確認し合いながら、その地域に合ったオリジナルの「地域防災マップ」を作ることを目的としています。

2 地域防災マップ作成の流れ

① 初期段階

町内会・自治会や自主防災組織の役員会などで、自主防災活動や避難場所、危険箇所などを話題にし、マップ作りについて話し合いをします。

② 計画段階

まち歩きを実施する日時を決め、地域住民に呼び掛け、道具の準備、会場の手配などを行います。

③ まち歩き実施段階

実際に自分たちでまち歩きを行います。災害時に役に立つ箇所や危険箇所などをチェックして、気が付いたことをメモに取り、写真に記録します。

④ マップ作成段階

まちを歩いて確認できたことを、大きな地図に書き込んでいきます。みんなで意見を出し合い、地域防災マップにまとめていきます。

⑤ 応用段階

(更にできれば) 地図に書き込んだ内容をパソコンでデータ化します。

3 地域防災マップ作成の進め方

(1) 初期段階

- 1 町内会・自治会、自主防災組織などで災害時の対応について考える機会を設ける。
- 2 川崎区防災マップ（川崎区役所危機管理担当で入手できます）などで地域の現状を把握する。
- 3 防災意識の重要性を認識し、地域防災マップ作りに向けた合意を得る。

(2) 計画段階

- 1 日時を決定し、参加者への呼び掛け方法を決定する。
- 2 マップ作成会場を手配する。
- 3 参加を呼び掛けるチラシを作成し、消防署・消防団、小・中学校、警察等の関係団体に依頼する。
- 4 必要な道具（文具、カメラ、地域の地図など）を手配する。
- 5 まち歩き範囲、班編成を決め、班別に歩くコースを決定する。
- 6 参加者の役割を決める（作成例は後述）。
- 7 その他
 - ・さまざまな職業、世代、団体が集まれるように広報します。
 - ・小雨でも実施できるように考えます。
 - ・1時間程度で回れるように班編成を考えます。
 - ・地図を準備するのが難しい場合は、川崎区役所危機管理担当に相談します。
 - ・川崎市ホームページで公開している「地図情報システム ガイドマップかわさき」で消火栓やAED設置場所等、災害時に役に立つ情報を調べ、地図上に落とし込んでおきます。

※ [ガイドマップかわさき](#) で [検索](#)

(3) まち歩き実施段階

- 1 調査当日の会場を設営する。
- 2 準備用品
 - ①役割別チェックリスト
 - ②バインダー（下敷きになるもの）
 - ③デジタルカメラ
 - ④メジャー・巻尺
 - ⑤文房具（黒、赤ボールペン、蛍光ペン、修正テープなど）
 - ⑥歩くコースの入った地図
 - ⑦役割別分担表【p.5参照】、名札
 - ⑧ノートPC・プリンタ
 - ⑨色別の付箋・シール
 - ⑩お茶・お菓子
- 3 参加者を「役割別分担表」により、振り分ける。
- 4 調査手順（コース順、調査項目、調査方法など）を説明する。
- 5 その他
 - ・まち歩きの際は、実際に災害（地震、火災、津波等）が起きたことを想定し、災害時に役に立つ箇所、危険箇所をカメラに記録しながら歩きます。
 - ・地図への記入は簡単なメモ程度で十分です。

- ・ 地図にカメラ撮影地点を記入します。
- ・ 交通ルールを守り、安全第一でまち歩きを実施します。
- ・ 大きな声で迷惑を掛けないよう、言動など、地元住民には十分、配慮します。

(4) 地域防災マップ作成段階

- 1 みんなで地図の作成の準備をする。
作成用の大きな地図を中心に、準備したツールを確認し、各係ごとにまとめ、地図作成を開始します。
- 2 各係で地図を作成する。
 - ① 撮ってきた写真を大きな地図に貼り付けます。
 - ② 気が付いたことを話し合います。
 - ③ 役割別チェックリスト【p.6参照】に該当する施設などを地図に記入します。
 - ④ 話し合いの中で気になった点は、地図や写真にコメントを記入します。
- 3 各班で作成した防災マップを発表し、意見交換をします。
他の班から意見や質問がないかを確認します。
- 4 地域防災マップを完成させます。
 - ①まとめた内容を地図に清書していきます。
 - ②各係の写真も活用し、該当箇所の近くに貼っていきます。
 - ③地域防災マップ作成作業は終了です。
※お茶やお菓子を用意して楽しく作業するのもお勧めです。
※アンケートを実施し、次回の防災まち歩きに活かします。

(5) 応用段階（マップのデータ作成）

完成した地図をパソコンでデータ化し、ホームページ等で公開できれば、皆が使いやすくなります。

4 地域防災マップの活用及び普及

(1) 各地域での「地域研修会」や「避難訓練」での利用

地域で行う「地域研修会」や「避難訓練」で活用し、地域防災マップづくりを実際に経験してもらいます。

(2) 日常的な「家族防災会議」の活用

各家庭で防災について話し合う「家族防災会議」を開き、地域防災マップをもとに避難行動などを話し合います。また、「家族防災会議」で話し合った内容を『わたしの防災手帳【p.16参照】』に書き込み、家族で情報共有を図ります。

(3) 自主防災組織、町内会・自治会、地域住民などへの配布

自主防災組織、町内会・自治会、地域住民などへ広く配布することにより、地域防災マップの啓発と防災意識の高揚を図ります。

役割別分担表（例）

★役割別チェックリスト項目は次頁を参照ください。

1 班長 氏名（ ）

- ・参加者の意識が高まるように心掛けます。

2 チェック係

※参加人数に応じて、一人が複数の役割を担当したり、人数を調整します。

◇ カメラ担当： 氏名（ ）

- ・班員がチェックした箇所を撮影し、地図に撮影箇所を記入します。

◇ 避難施設担当： 氏名（ ）（ ）

- ・避難施設になる場所を見つけてマップに書き込みます。

◇ 防災施設担当： 氏名（ ）（ ）

- ・防災施設を見つけてマップに書き込みます。

◇ 災害復旧担当： 氏名（ ）（ ）

- ・災害時に役立つ施設を見つけてマップに書き込みます。

◇ 危険箇所担当： 氏名（ ）（ ）

- ・危険箇所を見つけてマップに書き込みます。

3 安全確認係 氏名（ ）

- ・交通安全に注意し、みんなを誘導します。

4 技術指導係 氏名（ ）（ ）

- ・消防署や消防団の方が参加できる場合は、まち歩きをしながら、技術指導係として、適宜、防災に関する技術的な指導や助言します。

役割別チェックリスト

1 避難施設担当

広域	広域避難場所
避難（避難所）	小学校、中学校など
いっとき 一時（一時避難場所）	近くの公園や空き地など
高所（高い場所）	津波避難施設、高台、3階以上の建物

2 防災施設担当

消防	消防署、出張所、分団
給水	応急給水拠点、井戸
消火	消火栓・消火器、防火水槽、プール
無線	防災無線
防材	防災資器材の置場
防協	防災協力事業所

3 災害復旧担当

交番	交番・派出所（有人）
病院	病院・医院
店舗	コンビニエンスストア、スーパー
電話	公衆電話
薬局	薬局
トイレ	公衆トイレ
避難路	障害物が少なく避難に適した広い道
AED	AED(自動体外式除細動器)設置場所
備蓄	備蓄倉庫

4 危険箇所担当

低	浸水・冠水の危険がある低地
狭	狭い道、袋小路
塀	崩れそうな古いブロック塀
水路	危険な用水路、小川
曲角	見通しの悪いカーブ・曲がり角
GS	ガソリンスタンド
落下	看板、ガラス（落下の危険のあるもの）
注意	その他、注意すべき項目

5 その他

空き家	空き家
-----	-----

5 参考資料～「大島地区防災まち歩き」の実施結果

1 概要

地域を育むまちづくり部会で作成中の地域で防災マップづくりを推進するための冊子『地域防災マップづくりのすすめ（案）』を使って、大島地区で災害が起きたときに役に立つものや危険なものなどを見つけ、実際に地域防災マップ作りを体験し、『地域防災マップづくりのすすめ』の構成や課題を検証するために、大島2・4丁目にて「防災まち歩き」を実施した。

2 実施内容等

- (1) 日時 平成28年1月23日（土）13時～15時30分
- (2) 集合場所 向小学校（1階家庭科室）
- (3) まち歩き実施場所 大島2、4丁目
- (4) 内容

時間	内容
13時～13時30分	事前説明（まち歩きの方法、注意事項）、参加者紹介
13時30分～14時20分	4班に分かれて、まち歩きの実施
14時20分～14時50分	班毎にまち歩きを実施して気が付いたこと（災害時に役に立つ箇所、危険箇所となり得る箇所）をマップに記入し、まとめる
14時50分～15時20分	各班でまとめた内容を発表、意見交換
15時20分～15時30分	閉会、アンケート記入

(5) 参加者

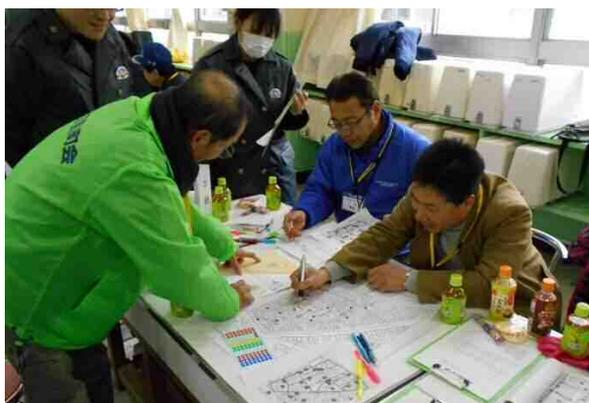
区民会議委員（戸村部会長、新井一成委員、岩瀬委員、中村委員、埜瀬委員、朴委員、藤村委員）、大島2・4丁目町内会関係者、向小学校生徒・保護者、川崎消防署・川崎消防団員第4分団、川崎警察署など33人



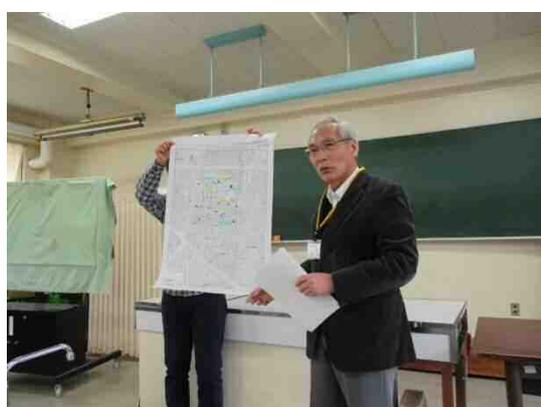
実際にまちを歩いて、マップにチェック！



お店の方にも話を聞きました。



色別にチェック箇所を大きなマップにまとめます。



班毎にチェックした内容を発表し、意見交換を行いました。

3 アンケート（抜粋）

✓ 良かったこと

- ・（地元に住んでいても）細かいところまで見ながら歩いたことはなかったので、良い経験になった。消防署等、公的な立場の人のお話を聞くことができ参考になった。
- ・全員が積極的に危険箇所などの発見に努めていた。
- ・普段、入ることのない細かい場所を確認するなど、地域に即した活動であり、有意義であった。
- ・住民や警察・消防等の行政機関、それぞれの意見を聞くことができ参考になった。警察の方も一緒に、安心して歩くことができた。
- ・みんなで色々な話をしながら歩くことで、新しい知識や気付きがあり、また、地域の方と顔見知りになれるのでとても良い機会であった。
- ・みんなでチェック箇所をひとつひとつ確認し、共通認識を持つことができた。地域を知る良い機会であった。今後も機会があれば参加したい。
- ・地域全体での防災意識の向上に役立つ取組である。
- ・井戸があったことが分かって良かった。みんなで歩いて確認することで、防災意識が高まって良かった。災害時に役に立つと感じた。

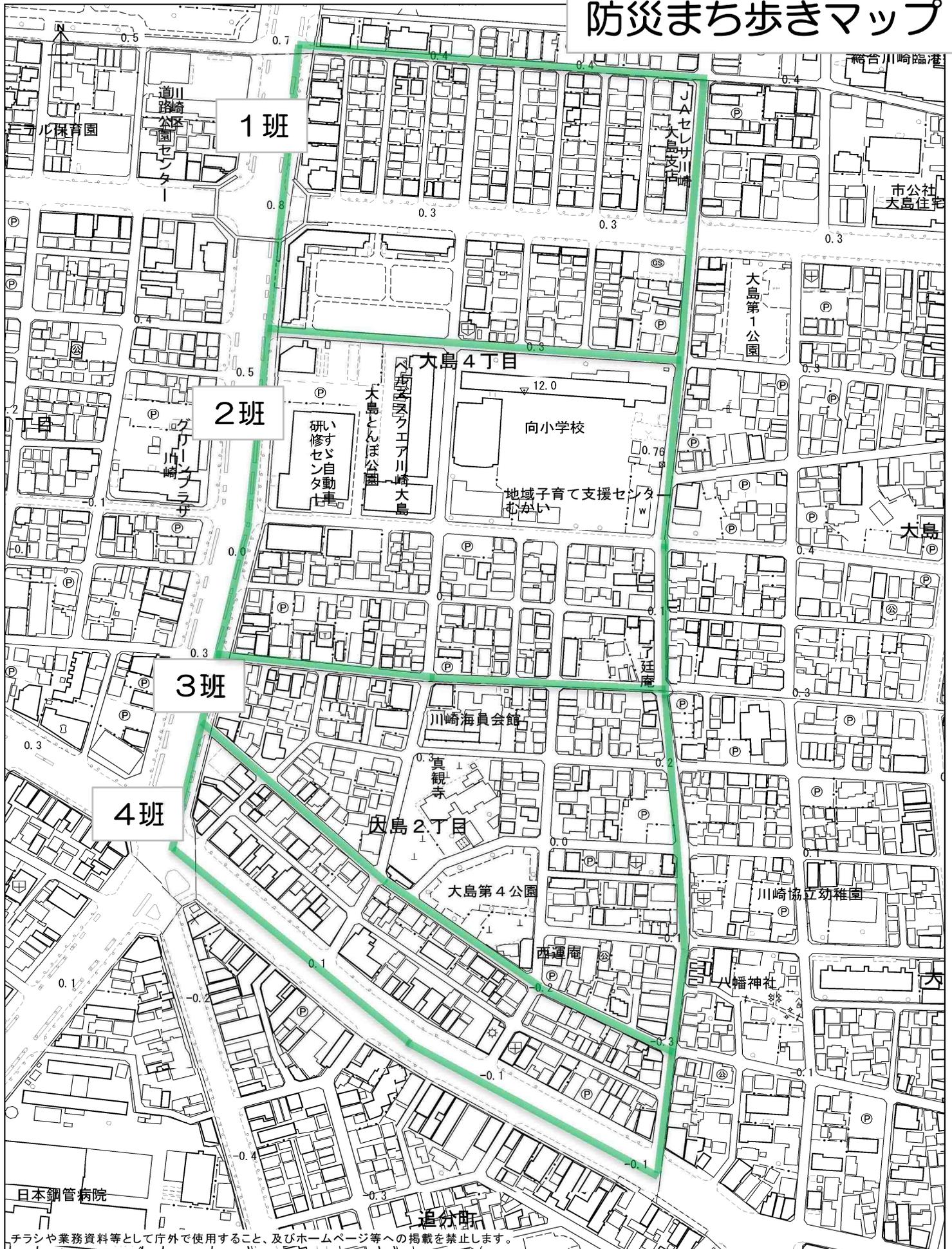
✓ 改善すべきこと

- まち歩きの地図のポイントが実物と一致していない箇所があった。
- まち歩きに夢中になり、後方からの車両に気付いていなかったり、道路いっぱいに広がってしまうことがあったので、役割分担に安全確認係を入れると、安全にまち歩きを実施できるのでは。
- 次回は、上下水道局など他の部局を増やして実施することも良いのでは。
- 出発前の説明で「車道に広がらないように」といったルールについても再徹底を。
- 小学生や中学生も参加できると良い。

✓ その他

- 良い取組なので、区内全域の町内会に広がると良い。
- 多くの人に防災に対する意識を共有してもらいたい。
- 身近な避難場所や消火栓といった設備を把握することが、自分や家族の身を守る防災の基本ではあるが、普段から周知できていることではないため、このような機会を設けて町内会という小さな単位で実施したことは重要であると感じた。
- 自分の身の回りにどのような防災設備があるのかなど、通勤・通学で少しずつでも知ることができるように呼び掛けることも重要であると感じた。
- 町内会・消防の協力により、地域防災マップづくりを進めていきたい。
- 年に1回は地域防災マップと照合するために、歩いて回る必要があると感じた。
- 今回、作成したマップを活用し、今後活かしていければと思う。
- 危険な道路にはカーブミラーの設置を。消火栓に色付けはどうか。
- 町内会ではAEDの確保、津波避難所は課題となっているところです。なんとなく見ていたが、改めて街の風景（防災設備）を確認できた。
- 鋼管通2丁目町内会では、子供会の企画で、年1回、『街発見ウォークラリー』として、消火栓、マンホールなどをゲーム感覚でチェックする取組を行っている。このようなゲーム化した企画を小地域でやるもの一興かなと思う。
- 今回作成したマップをインターネットで公開し、幅広く活用して欲しい。
- 自分の住むまちの環境を知ることは大事である。
- 自分のためにもなるので、地域の人に多く参加してもらいたい。
- 町中にもっと消火器があった方が良い。

防災まち歩きマップ



チラシや業務資料等として庁外で使用する、及びホームページ等への掲載を禁止します。

まち歩き実施結果（各班まとめ）



3班のまとめ



4班のまとめ





100 m
1:2,000

大島地区防災まち歩き 次第

日時：平成28年1月23日（土）午後1時～
場所：向小学校 1階家庭科室

1 開会

2 部会長あいさつ

3 本日のタイムスケジュール

時 間	内 容
①13:00～13:30	事前説明（まち歩きの方法、注意事項）、参加者紹介
②13:30～14:40	4班に分かれて、まち歩きの実施 ※予定コースを回りきれない場合でも、14時40分までには学校に戻ってください。
③14:45～15:15	班毎にまち歩きを実施して気が付いたこと（災害時に役に立つ箇所、危険箇所となり得る箇所）をマップに記入し、まとめる
④15:15～15:45	各班、3分程度で③でまとめた内容を発表、意見交換
⑤15:45～15:50	閉会、アンケート記入

【配布資料】

- ・ 防災まち歩き実施要領
- ・ みんなで作る！地域防災マップづくりのすすめ（案）
- ・ まち歩き全体マップ、班別マップ、係別チェックリスト
- ・ 大島地区防災まちあるき参加者アンケート
- ・ チラシ「大島地区防災まち歩きのご案内」
- ・ 向小学校区防災マップ

向小学校3・4年生のみなさんへ

川崎区区民会議主催

大島地区

参加無料



防災まち歩きのご案内

地域の課題を地域の力で解決することを目指して活動している川崎区区民会議では、地域で防災マップづくりを推進するための冊子『地域防災マップづくりのすすめ』の作成を進めています。

今回、『地域防災マップづくりのすすめ』を使って、大島地区で実際に災害が起きたときに役に立つものや危険なものなどを見つけ、マップに書き込んでいくという「防災まち歩き」を実施することになりました。いざという時に備えて、家族で一緒にまちを歩いて、防災について考えてみませんか。



『地域防災マップづくりのすすめ(案)』

- 日時** 平成28年1月23日(土) 13時~16時(開場12時45分)
- 集合場所** 向小学校 1階家庭科室
- 持ち物** 上履き、飲み物、筆記用具 ※防寒着、歩きやすい靴で
- まち歩きの範囲** 大島2・4丁目
- 行程**
 - 13:00~13:30 事前説明
 - 13:30~14:30 班毎にまち歩きをスタート
 - 14:30~16:00 集合場所に戻ってまち歩きの感想を話し合い、マップを作成します。
- 問合せ** 川崎区区民会議事務局
川崎区役所まちづくり推進部企画課 Tel.201-3296

※お子さんだけの参加はご遠慮ください。
※荒天中止 中止の場合は当日、10時までに電話で連絡します。
※川崎区区民会議についての詳細は、[川崎区区民会議](#)で検索!



キリトリ線



キリトリ線

参加申込書

参加する人の名前	年齢または学年	電話番号

※参加する場合は、1月18日(月)までに学校に[参加申込書](#)を提出してください。



『わたしの防災手帳』の使い方

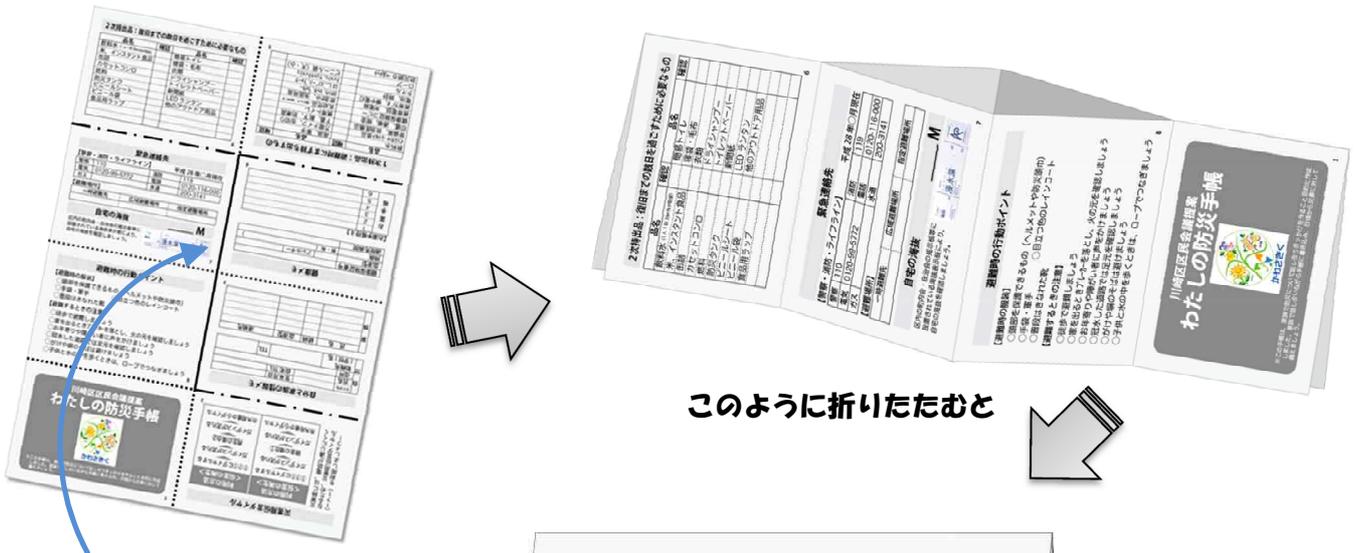


■ 目的

災害が起きた直後は「自助」がとても重要になります。また、各家庭で防災について話し合うことは、「自助」の強化となり、自分や家族を守ることにもつながります。そこで、川崎区区民会議では、各家庭で防災について話し合う（「家族防災会議」）きっかけを作るため、『わたしの防災手帳』を作成しました。

■ 作り方

『わたしの防災手帳』は、低コストで、かつ、各家庭の家族構成に応じて利用できるように、データを区ホームページからダウンロードができるようにしています。印刷時はA4サイズ、自分で折り曲げて8ページの手帳ができあがります。



真ん中に切れ込みを入れて

- 切れ込み : _____
- 山折線 :
- 谷折線 : - . - . - .

このように折りたたむと



さあ、完成です！！

■ ダウンロードについて

『わたしの防災手帳』は、川崎区のホームページからダウンロードできます。

川崎区区民会議 わたしの防災手帳 で



かわさきく

平成28年3月 第5期川崎区区民会議 地域を育むまちづくり部会

みんなで作る！地域防災マップづくりのすすめ

◆川崎区区民会議ホームページ



<http://www.city.kawasaki.jp/kawasaki/category/94-10-1-15-0-0-0-0-0-0-0.html>